



伊勢地域

ときわまちかど クリニック

5/1(木)
オープン

ときわまちかどクリニック
スタッフのみなさん



Message

2025年5月1日ときわまちかどクリニックが無事オープンすることが出来ました。私たちは気軽に立ち寄れるようなクリニックをコンセプトにしています。そのため建物の外観は一見クリニックらしくないかもしれません。看板も落ち着いた茶色であり主張していません。内装も一般の住宅のように落ち着いた雰囲気に仕上がっています。心身の不調、生活の悩み、ちょっとした相談ごと、とりあえずまちかどクリニックに行ってみようと思ってもらえるような地域のよりどころになることを目指しています。当院スタッフは「おせっかいなほど親切でありたい」を合言葉に皆さんをお迎えし、対応しています。お帰りにられる時にはやっぱりここに来て良かったな、と少しでも笑顔になってもらえるよう職員一同努力して参ります。

ときわまちかどクリニック
院長 荒木潤先生

【理事コラム】

おいな おいな | 出会いから学んだ私が大切にしていること 津地域 飯村 初美さん

何でも100%そつなくこなすオールマイティーな父、早起きしてお店を切り盛りする母。家族や幼なじみと魚釣りや野外料理を楽しむ、ご近所には知恵袋のようなお爺さんやお婆さんがたくさんいて、そんな中で私は育ちました。合唱団に始まり、鼓笛隊、バントワラ、マーチング、ブラスバンドと音楽に親しんだ日々。姉について行ったそろばん教室では、先生がそろばんを貸してくれて「答え、合ってるよ!」と笑顔で言ってくれたのが嬉しくて、準2級まで取得しました。藤娘に憧れて自分の髪で結ってもらい、写真を撮ったあの瞬間も、今では大切な思い出です。お茶(裏千家)は資格を取りませんでしたが、生花(未生流)は師範を取得し、先生の代稽古に行った教室で今の夫と出会いました。夫は表千家の男手前で、お茶会では着物姿で勇姿を披露することもありました。進路に迷っていた頃、父の勤める会社から「2月から来てほしい」と声がかかり、卒業前の新入社員ながら会計業務や取引先との交渉など責任ある仕事を任せられました。気づけば先輩にお茶を入れてもらう立場に。卒業旅行も有休を取って出かけ、2年目には新人教育まで担当していました。料理学校の実習で京都に行っていた間に、なんと両親がまだ「未定」だった夫を連れて、姉の嫁ぎ先・富山に出かけていたと聞きびっくり。「暇あったら一緒に行くかって誘われたから」と言われても、え?って感じですよ。成人式の日、彼(夫)が迎えに来てくれたのですが、帰宅後に母から

「父が迎えに行くのを楽しみにしていたのに」と言われ、親不孝だったと反省。けれど結婚式では、父が涙がかるほど泣いてくれて、長男の誕生時には車を飛ばして産声を聞きに来てくれました。お祭りで長男とはぐれてしまった時、「あそこで歌えば父さん気がつくよ!」と舞台上がり熱唱。見事に気づいてもらい、飛び入り参加で入賞。賞品までもらった出来事は、忘れられません。ママさんコーラスの代表をしていた頃、ミュージカル出演の話があり、オーディションを受けました。厳しい練習を乗り越えて舞台上に立ち、客席の最前列に友人を見つけて思わず手を振ってしまったのも、今では笑い話。監督に見つからなくてよかったです。趣味は「広く浅く」がモットー。そば打ち、墨流し、水引細工、バルーンアート、機織り、折り紙、小物づくりなど、たくさんの体験をさせてもらいました。コープの大型店舗でアルバイト学生を見守った日々、福祉の世界でヘルパー資格を取得し、教育委員会で和紙漉きや陶芸、水族館のバックヤードツアーを企画したことも、私の宝物です。超未熟児で生まれ、何度もあちろの世界を覗きつつも、母の声や子どもたちの手のぬくもりに助けられながら、今の私がいます。残された人生は「儲けもの」。たくさんの出会いに感謝しつつ、これからも後悔のないように、生きることを楽しみ、「粋な老い支度」ができればいいなと願っています。



2024年度 総括ダイジェスト

第15回 みえ医療福祉生活協同組合

通常総代会 に向けて

健康づくり

みんなで健康づくり・まちづくり

- フレイル予防や筋力アップ、減塩のとりくみなど、楽しみながら健康づくりをサポートする活動をすすめました。
- 子どもたちの健康づくりチャレンジや親子参加の場も増え、世代をこえたつながりや健康づくりをすすめました。
- ボッチャやモルック、脳トレ体操など、各地域で「楽しい」場づくりをすすめ健康づくりをすすめました。
- 児童保育での健康講座など、子どもたちのすこやかな育ちを応援しました。
- 「おたがいさま」で支え合えるまちをめざし、助け合いボランティアや送迎ボランティア活動、居場所づくりをすすめ「安心のネットワークづくり」にとりくみました。



ボッチャ体験

なかまづくり

なかまをふやし、つながりを深める

- 健康まつりやマルシェ、交流会などを通じて、笑顔とつながりがひろがりました。
- 子ども食堂やフードパントリーなど、困りごとに寄りそう活動を継続してとりくみました。
- 健康麻雀や音楽など、楽しみをきっかけにした新しい班会が生まれ新たなつながりが生まれています。
- 大学生や福祉施設との連携など、多様な人や団体と手を取り合う機会も増えました。
- SNSやニュースなどで活動の見える化をすすめ、生協のことをもっと身近に感じてもらえるように工夫をすすめました。



キッズクリニック

ごみひろE散歩



くらし・まちづくり
安心してくらしを
社会をめざして

- 能登被災地支援や生活困窮へのとりくみなど、誰もが安心してくらしを地域づくりを継続してとりくみました。
- 社会保障や医療・介護制度の改善を願って、署名や学習にとりくみました。
- 平和を考える講座や展示、ピースアクションなどで「未来の安心」についても発信しました。
- 地域清掃や防災学習、環境への関心を高める活動など、身近なSDGsを広げる活動にとりくみました。

事業活動

みんなのくらしと働く場をささえる

- 病院では入院機能を活かした連携を強め、診療所でもチームでの看護の充実をすすめました。
- 組合員により院内ボランティアや地域との関わりが医療・介護を支えています。
- 介護現場では働き方やサービスの見直しを重ね、持続可能な運営をめざしとりくみをすすめました。
- 全職員での学びやハラスメント防止のとりくみを通じて、働きがいのある職場づくりをすすめました。



院内ボランティア

第15回 みえ医療福祉生活協同組合

通常総代会のご案内

日時: 2025年6月29日(日) 9時30分~13時

会場: 津市芸濃総合文化センター
津市芸濃町椋本6824

【お問合せ】

組合員活動センター 059-213-8668

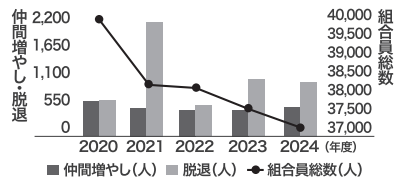


数字で見る
みえ医療福祉生協

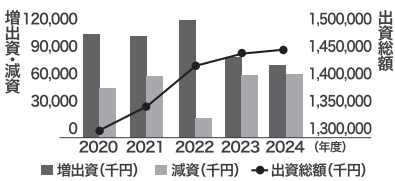
【現勢】
2024
年度末

組合員数/37,223人(前年度比-463人)
出資総額/1,449,430千円(前年度比+10,813千円)
班会開催/のべ3,027回(前年度比+34回)
班会参加者/のべ23,648人(前年度比+1,602人)

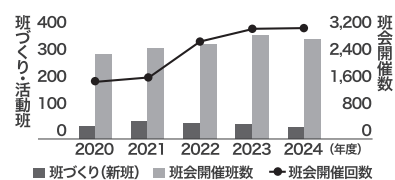
仲間増やし



出資金



班活動



項 目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
仲間増やし(人)	659	520	488	502	550
脱退(人)	678	※ 2,141	※ 581	※ 1,064	※ 1,013
組合員総数(人)	39,962	38,341	38,248	37,686	37,223
増出資(千円)	104,882	102,639	118,970	82,270	74,840
減資(千円)	50,387	※ 62,587	※ 20,885	※ 65,927	※ 64,027
出資総額(千円)	1,312,346	1,352,399	1,422,274	1,442,480	1,449,430
班づくり(新班)	41	60	52	47	38
班会開催回数	286	308	324	354	332
班会開催回数	1,523	1,659	2,646	2,993	3,027
班会参加延べ組合員数	10,895	11,748	19,014	22,046	23,648

※住所不明脱退組合員の脱退処理を含みます。

テーマ

誰もが健康で居心地よく
くらせるまちづくりへの挑戦

①健康になれるまちづくり

- 健康づくりを「見える化」「見える化」し、地域での健康づくりのネットワークを広げていきます。
- 健康診断受診率の向上で地域の健康度を高めていきます。

- 「健康づくりチャレンジ」を健康習慣の定着ツールとして活用します。
- 24時間畜尿塩分調査・すこしお生活の実践を広げます。
- 健診班会や受診キャンペーンにとりくみます。
- 誰もが気軽に立ち寄り、一緒に活動できる「居場所」づくりを広めます。

②平和で公正な社会づくり

- 身近な暮らしの問題や、これから起こる事・変化に興味を持ってもらえるような発信をします。
- 現場(事業所)からの発信や学習にとりくみます。

- 戦後80年・被爆80年の節目の年に平和と前講座を全県に広めます。

③なかもつくり

- 事業・活動の中から困難事例だけにとどまらず、身近な諸問題を取り上げ、広く発信・学習・共感を広めます。
- 行政や社協をはじめとした様々な団体と連携やネットワークを作り、地域の諸問題への対応・とりくみを強めます。

- 組合員・職員の相互理解と交流(みんなで交流)を深めます。
- 他団体との連携・支部のない地域への活動支援・支部の枠組みを超えた活動(みんなでつながる)にとりくみます。

- 活動の見える化・見せる化(みんながみえる)を意識し、なかもつくりにつなげます。
- 新たなカタチやニーズに合った活動の展開と共に、持続的なとりくみ(みんなで協力)となるよう協力者(担い手)増やにとりくみます。

- 職員と組合員の交流企画を各地域・全県でとりくみます。
- 楽しい魅力的な、人を誘いたくなるような活動づくりを広めます。

④事業活動

- 情報の発信の強化・工夫を進めます。
- 「できること」に・できるひとが・できることを」を大事に参加し、担ってもらえる仕組みづくりを工夫します。

- 地域で信頼される事業をすすめ、必要剰余を確保し持続可能な経営をします。
- 医療・介護従事者を確保し、働き甲斐のある職場づくりをすすめます。

- 医療福祉生協の理念や事業所・職場の魅力を高め、発信します。
- 職場でのコミュニケーションを大切に「心理的安全性」のある職場をつくりまします。
- 座学だけでなく、実践を通じた職員教育を大切にします。

4月 理事会報告

日時 2025年4月26日(土)14:00~16:40

会場 地域支援センターえがお2階会議室・WEB

出席者 (出席理事)32名中27名 (出席監事)4名中4名

協議・報告事項

- 2024年度みえ医療福祉生協の活動の振り返りと2025年度活動方針案について討議しました。
- 5月~7月を「班づくり・班会開催月間」として各地域で班会を行い、健康づくりの取り組みを広げ新たなつながりづくりをすすめていくことを討議しました。
- 2024年度の経営報告として、事業収益は前年は上回ったものの予算比では99.5%の到達となりました。事業費用も予算比で99.2%と予算を下回ったことから経常剰余は予算比で135.6%の到達となったことが報告されました。
- 2025年度予算案について確認しました。

議決事項

- 2025年度総代会に向けた事前議決事項(開催日時、書面議決書の提出期限等)について確認しました。

みんなのクイズ

解けなくても考えることで脳が活性化します。少し難しいかもしれませんが、チャレンジしてみてください。

○と□に入る文字

○は全て同じ文字、□にも全て同じ文字が入ります。入る文字を教えてください。

キ○メ□
ケ○イ□
コ○ア□
タ○ザ□

答え

○
□

4月号の答え ①5+4-1+2=10 ②2+4+1+3=10 ③2+9-5+4=10
④9+3-7+5=10 ⑤8+9-1-6=10

応募方法① ハガキに、①答え ②住所 ③氏名 ④電話番号 ⑤「みんなのえがお」へのご意見・ご感想をお書き添えのうえご応募ください。抽選で5名の方に500円の図書カードを差し上げます。

送り先 〒514-0803 津市柳山津興1548
みえ医療福祉生協同組合 組合員活動部

締切日 ハガキ・QRともに2025年6月20日(当日消印有効)

※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。

応募方法② QRコードの応募フォームに必要事項を入力していただきご応募ください。
応募QRコード(携帯電話で読み取ってください)



お願い

- 転居および氏名に変更があった場合は、組合活動部(059-213-8668)までご連絡ください。なお、定款に基づき、毎年定期的に全組合員に対して「みんなのえがお」を郵送し、住所の確認を行っています。住所の確認ができず、3年間連続して郵便物が返送されてきた場合は、みなし脱退の対象となります。
- 機関紙は組合員のボランティアが手配りでお届けしています。郵送で届いている方で、ご近所への配布にご協力いただける方は、最寄りの組合員活動部へご連絡ください。

高齢者の移動支援に向けた一歩

移動する自由をあきらめない!



高齢者が運転する車の暴走事故が起きるたびに、高齢者に対して周囲からの運転免許証返納圧力が高まる昨今です。認知症による返納も増えています。しかし、車を運転できない＝社会参加の機会が奪われることで、その人の生活の質を大きく左右します。自由に移動すること・できることは「交通権」と言われ、人権です。国や自治体には保障する義務があります。アメリカや韓国は公共交通を維持するために多額の公費を投入しています。一方、日本では鉄道ローカル線やバス路線の廃止が続いてきました。桑名地域・伊賀町診療所前のバス停も昨年とうとう廃止されました。交通権の保障は社会的な問題になりつつあります。

桑名地域でのボランティアによる移動支援は構想から開始まで1年半かかりました。先行している愛知県豊明市を訪問しての聞き取りや、中部運輸局に足

移動支援 がーこのくるま
登録ドライバーさん
募集中!

◀登録ドライバーさんによる送迎の様子



を運んで担当専門官への確認、損害賠償保険の整備や規約作りなどに時間がかかりました。ボランティアドライバーの登録もなかなか進みませんでした。

ようやく今年2月に登録ドライバー1名からの運行開始にこぎつけました。ボランティアによるマイカーを使っでの移動支援はみえ医療福祉生協でも初です。今のところ2月から毎月3件程度の利用があり、登録ドライバーも少しずつ増えてきました。やってみないとわからないこともあり、課題のフィードバックも目的にしています。実際、待ち時間が長い大病院の付き添いをどうするか?などの課題が出ています。

ボランティアの車を使用するため、万が一の事故などに備えてフルカバーで保険をかけています。保険料はわずかな補助金を取り崩して充当していますが、今後、利用が広がれば赤字になることは明白です。実績を作りながら、公共交通を補う手段として桑名市に十分な公費助成を求めていきたいと思っています。新しい事業は最初から採算がとれるわけではありません。地域に必要なから取り組むのです。次の目標として、社会的に認知され、理解され、必要とされることを通して公費助成を実現させていきたいと思っています。

地域活動推進課 久野浩司

●材料(4人分)

厚揚げ 2枚
(柔らかいものがおすすめです)

白葱 1/2本
にんじん 1/4本
ピーマン 1個

サラダ油(炒め用) 大さじ1
ごま油(仕上げ用) 少々(なくても可)

濃口醤油 大さじ1
砂糖 大さじ1
酒 大さじ2
顆粒鶏がらスープ 小さじ1
水 300cc
こしょう ひとつり
片栗粉 小さじ2
豆板醤 小さじ1/4~1/5
にんにく 小さじ1
生姜 小さじ1
(にんにく・生姜はチューブのもので可)

1人分
189kcal
塩分1.1g

とっておきレシピ



家常豆腐
ジャーチャントウフ

作り方

- ① ボウルなどに合わせ調味料すべて入れ、混ぜ合わせておく。
- ② 厚揚げを半分の厚さにし、3~4等分する。(薄いものはそのまま乱切りに)
- ③ 白葱は厚めの斜め切り、人参は短冊切り、ピーマンは乱切りにする。
- ④ フライパンにサラダ油を引き、野菜を炒める。野菜に油が馴染んだら、合わせておいた調味料と厚揚げを加え、弱火から中火で煮る。
- ⑤ 野菜が好みの硬さになったら、仕上げ用のごま油を加えて出来上がり♪



生の豆腐を揚げ豆腐にして作る料理ですが、手軽に作れるよう厚揚げを使いました。お好みで、肉・ハムなどを加えて、野菜は自由に変えていただけます♪

津生協病院 加藤唯(調理師)



家に常にあるもので作れる料理なので家常豆腐と呼ばれています!